

祝

V50 日本大馬術部



日本大学馬術部(諸岡監督)が昨年10月30日から11月4日までJRA馬事公苑で行われた第62回全日本学生馬術三大会で、三種目総合団体5連覇を達成した。種目別では、馬場馬術が団体優勝、同種目では沖廣諒(3年)が2連覇を果たした。全般で安定した力を発揮し総合力の勝利だった。同部はきょう17日、優勝祝賀会に臨み、さらなる飛躍を誓う。

最多更新へ諸岡監督「超えるまで私がやるのかな」



胸上げされ「自分でもいいのかな？」

連勝を止められ「いや、終わられてうれしい気持ちでいっぱいなんです。突如主将に任命され緊張の連続でしたが、チームとしてはこれまでになく「コミュニケーション」を取り、此細(こほろ)なところでも話し合い、悩み相談などをしました。表彰式が終わった後胸上げをされました。自分でもいいのかな?」とも思いました。初めての経験だったので怖かったです。うれしかったです。今年の全日本学生は完全優勝してほしいです。【主将 山田祥貴】

◆全日本学生馬術三大会平成27年成績◆

第62回 学生賞典障害飛越競技	団体総得点	ポイント	
順位	同大	26	70
優勝	同大	29	60
2位	関大	47	51
3位	日大		

第65回 学生賞典馬術馬術競技	団体総得点	ポイント	
順位	日大	3409.5	70
優勝	立命大	3273.5	60
2位	京産大	3268	51
3位			

第65回 学生賞典総合馬術競技	団体合計得点	ポイント	
順位	明大	170.7	70
優勝	専大	182.6	60
2位	日大	183.2	51
3位			

三種目総合団体	総合ポイント	
順位	日大	887
優勝	明大	730.5
2位	専大	604
3位		

◆日大馬術部 創部は1924年(大正13)。昭和、平成と波瀾(はら)万々の時代を乗り越え、67年(昭和42)に初の全日本学生馬術三大会総合優勝を飾った。以来多くの五輪代表選手、名選手、名馬を輩出した。13年には団体優勝回数400勝を達成。11年から全日本学生馬術三大会三種目総合5連覇を達成中。チーム記録は57(62年)にかけての6連覇。これからは常に学生馬術界のトップを走り続ける。

◆馬術競技「障害馬術」「馬場馬術」「総合馬術」の3種目があり、男女ともに唯一同じステージで戦う競技。五輪種目にもなっている。全日本学生馬術三大会は毎年11月に開催され、全日本学生賞典障害飛越競



馬場馬術で連覇を果たした沖廣諒一



総合馬術で2位に食い込んだ今橋裕晃

「正直なところ突如Vが、一番だが、連覇を途絶えさせなかったことも大きい」と諸岡監督は振り返った。大会は最初の障害飛越で松本謙が個人2位、団体も3位と好スタートを切った。続く馬場馬術は沖廣諒が個人優勝、団体も制して団体総合も1位に浮上し、日大のお家芸ともいえる総合馬術に挑んだ。この種目には5人が出場し、今橋裕晃が2位、昔も引きずって仕方のないこと。逆原健太郎が8位に入るなど計3・5に自分にもチャンスがやってくる

「ピンチからチャンスへ」

3月からは、いよいよ新たなシーズンが始まる。V6がかかるとは昨年の優勝経験メンバーが多く残り、有望な新人も加わる予定。4月にはスポーツ科学部もスタート。選手強化にさらに力が入る。次の大会は標旗の明大の持つ全日本学生三大会優勝「17度」を更新する。一、あと12回勝つてようやくタイ記録か。とついでとついでと諸岡監督に、すかさず細野ヘッドコーチが「お願ひします」。監督は「超えるまで私がやるのかな」と、力の限り続けることを口にした。

点を獲得。三種目総合ポイントで肉薄する明大を上回り優勝が決まった。アトランタ、シドニー両五輪総合馬術日本代表のスペシャリスト・細野茂之ヘッドコーチ(47)は、「総合馬術で全員が完走できたのが大きい。総合力の勝利です」と語った。

4連覇の道は、決して平坦ではなかった。11年大会は最終の総合馬術で3人が失権するアクシデントがあり大接戦の末に勝利。14年は明大に総合馬術で19ポイント差まで迫られたが、振り切って優勝。「各校とは紙一重の差。気を抜くとすぐ抜かれてしまうのです」と監督。

普段の生活についても細かい注文を付け、常に緊張感を持続させることで王者の座を譲らずに来た。

今回は全日本学生の約2カ月前に主将が変わった。チーム内に「一瞬動揺が走ったが、体と心の準備がみんなできていた。突如乗る馬が変わった。短期間で調整し、馬場馬術4位、総合馬術8位に入った。全員が、全日本学生5連覇」という同じ方向を向くことができていた。

監督は「終わってしまったこと、逆も引きずって仕方のないこと。逆原健太郎が8位に入るなど計3・5に自分にもチャンスがやってくる」と語った。

表彰式後に監督、主将、4年生たち次々と胸上げされた。監督は「途中で落とされるのではないかと心配でした」と愉快そうに笑った。それでも選手への喜び方は控えめだった。「敗者を思いやる姿勢を、忘れなかつたんです」。監督は満足そうに語った。

人馬一体で快挙!! 誇り おめでとう一日大馬術部にみんなからありがとう

大学関係者コメント



全日本学生馬術三大会5年連続優勝おめでとうございます。監督、選手諸君に心からお祝い申し上げます。自ら考え、自ら行動する姿勢にあらわれる精神で、これからも活躍を期待しております。
【理事長 田中英壽】



各位の努力に、心からお礼を申し上げます。スポーツの持つ力が認められる昨今、選手諸君は競技力の向上も、下り人間性をより磨いて頂き、高い志をもった人間に育ってほしいと思います。馬術部のますます発展を心より願っております。
【学長・大塚吉兵衛】

【常務理事、馬術部長・中村克夫】馬術部は大正13年に創設された伝統ある部ですが、このたび創設者選手諸君の日のこの練習と努力のたまもの結果であり、監督、コーチ達の優れた指導、部員全員の協力があったなし得た快挙であります。今回の結果に満足するどころか、皆様の力強い応援をお願いいたします。【馬術部副部長・丸山純一】馬術部のOB、OGが所属する桜協会の木内義則会長(70)は「なんといつても学生日本一になったのだから、うれいですが」と喜んで、近年間会長を務めるの下の力持ちとして部や選手たちを支えている。同氏は67年の全日本学生三大会に主将として出場、日大として初めて団体総合優勝を達成している。「当時は大が勝ったの?とびっくりされたものです」と懐かしんだ。昔はテレビ放送もなかった中で「みんなの目に触れるような努力も必要です」と力説した。

馬術関係者コメント

馬術は馬だけでなく人だけでもうまくいきません。馬と一緒にすることが大事で、その日のコンディションもありません。優勝は本当に難しい。日本大学はこれからの選手を輩出しておりますので、今後の連覇達成とともに、4年後の2020年東京五輪に向けて、多くの選手を育てていきたいと思います。心から期待しております。
【日本馬術連盟副会長、日本オリンピック委員会会長・竹田恒和】

【日本中央競馬会調教師 藤原辰雄】私を始め、息子を娘の3人は、日大馬術部出身です。私の現役時代には、成し得なかつた5年連続を子供たちがの任中に達成されたことは、本当にうれしく感じています。故郷監督をはじめ諸監督並びに関係者の皆様の努力のたまもの感謝申し上げます。今後は、現役部員はこの結果を誇りに、日々の努力が実を結ぶ事を信じて精進して下さい。
【日本中央競馬会調教師 伊藤三三】技術不足をチームの結束で克服してここまで来たと思えます。試合当日は出場選手だけでなく、応援の部員もみんな真剣に試合を見ています。だからチームワークの勝利。馬術は個人スポーツですが、実は「団体スポーツ」だと思っています。これからも頑張ります。これからは応援して下さい。
【福田元(コーチ)】出場選手・馬付・競技補助員・厩舎番がそれぞれ責任を持ち、学生馬術大会での優勝を目指して協力できる結束力が、日大馬術部の強さを感じています。日大馬術部には、素晴らしい馬匹・施設・伝統・仲間達がいます。謙遜に食後に記録を伸ばせるように今後もお手伝い致します。
【岩谷一裕(コーチ)】私の入学時は2、3番手だったけど、今の学生は勝つことが当然の一番の大学に入ってきた。何もなくても勝つというようになってきた。勝つことの大変さを常に意識して欲しい。
【日本中央競馬会・伊藤昌展(コーチ)】馬術部員全員が重要な立場にいて、誰が欠けてもこの5年連続は出来なかつた事実を感じています。それだけ監督、コーチ、学生のチームワークが良いというところだと思います。学生馬術の神髄とも言えます。みな様は日本大学馬術部の一員であることを誇りに思ってください。プレッシャーも強くなってきました。王者にふさわしい態度で馬術部生活を送ってください。

笑顔の馬術部選手と指導者。「チームワーク」が最大の武器だ



最大の武器

チームワーク

OB祝福コメント

三種総合の覇を競うようになったのは4年生の時、故郷監督が音頭を取って「東京杯」と誇りに思っていました。当時の監督が、激力を注いでおられますが、激力は置いといて、馬術の世界に身を置いた馬術部員が、激力を注いでおられます。馬術の神髄、部の雰囲気等は、全く違います。「勝つ」という使命は変わりますが、このようにお思います。学生馬術の本質を忘れず、この記録更新に向けて下さい。
【日本中央競馬会調教師 藤原辰雄】私を始め、息子を娘の3人は、日大馬術部出身です。私の現役時代には、成し得なかつた5年連続を子供たちがの任中に達成されたことは、本当にうれしく感じています。故郷監督をはじめ諸監督並びに関係者の皆様の努力のたまもの感謝申し上げます。今後は、現役部員はこの結果を誇りに、日々の努力が実を結ぶ事を信じて精進して下さい。
【日本中央競馬会調教師 伊藤三三】技術不足をチームの結束で克服してここまで来たと思えます。試合当日は出場選手だけでなく、応援の部員もみんな真剣に試合を見ています。だからチームワークの勝利。馬術は個人スポーツですが、実は「団体スポーツ」だと思っています。これからも頑張ります。これからは応援して下さい。
【福田元(コーチ)】出場選手・馬付・競技補助員・厩舎番がそれぞれ責任を持ち、学生馬術大会での優勝を目指して協力できる結束力が、日大馬術部の強さを感じています。日大馬術部には、素晴らしい馬匹・施設・伝統・仲間達がいます。謙遜に食後に記録を伸ばせるように今後もお手伝い致します。
【岩谷一裕(コーチ)】私の入学時は2、3番手だったけど、今の学生は勝つことが当然の一番の大学に入ってきた。何もなくても勝つというようになってきた。勝つことの大変さを常に意識して欲しい。
【日本中央競馬会・伊藤昌展(コーチ)】馬術部員全員が重要な立場にいて、誰が欠けてもこの5年連続は出来なかつた事実を感じています。それだけ監督、コーチ、学生のチームワークが良いというところだと思います。学生馬術の神髄とも言えます。みな様は日本大学馬術部の一員であることを誇りに思ってください。プレッシャーも強くなってきました。王者にふさわしい態度で馬術部生活を送ってください。

現役選手コメント

必ず連覇をしなければと心がけ、試合に挑みました。馬術個人では、2連覇をしましたが、敬儀の良さを引き出せなかつたことが心残りです。来期は最後の年なので、連覇はもう、納得の結果で出たいです。来年も再来年も優勝できるようにチームを作っていきます。
【中廣謙一】最初の障害飛越で馬が水濡前まで止まりました。ご心配をおかけしました。その後は気持ちの切り替えを心掛けた。仲間の励みや馬に助けてもらって馬場総合を乗り切ることができました。思った通りの結果は出ませんでした。素直にうれい。【菅原権太郎】障害飛越は第一走者ということに、彼に乗りこえることができました。それでも仲間がコースの内巻、注意点を伝えることに徹した。

強さの秘密は監督の熱意と大学の支援

99年から監督補佐を、務める小川登美夫(コーチ)は「(38)は強さの秘密。監督は04年の購入。競走馬の育成も行って馬を「最も大きいのは監督の熱意と大学の支援」している。大学の協力で練習環境も抜群。4年前に馬場を改修、厩舎も2つあり頭を保有している。厩舎は馬場の隅まで完備。合宿所は日大32部の中で最も古い。学生たちの手によって常に清潔に保たれている。OB、OGによる協力体制も充実している。

5年連続振り返る

04年の諸岡監督就任後は、種目の優勝はあったが三種目総合優勝には手が届かなかった。11年に伊藤昌展主将(現日本中央競馬会職員)・上原鳥谷部。天谷を主力としたメンバーが激戦の末、歴々の優勝。12年は高橋優也主将が強いリーダーシップを発揮、馬場と総合の2種目を制し団体総合優勝を果たした。13年の主将は木崎翔太・相澤神林。初田の女子3選手が大活躍。史上最多得点を記録すると同時に、前年同様馬場と総合の2種目を制し3連覇。14年は2年生中心で臨んだ。馬場の2頭失権というアクシデントがあったが、最終種目の総合競技で大逆転の末優勝。沖廣は馬場の主将として山田祥貴。大会の主将は山田祥貴。大会期間でチームをまとめ、馬場・優勝。沖廣は個人連覇。最後の総合でもつれ込んだが、3位に食い込み三種目総合優勝を果たした。

学年	氏名	学部
4年	伊藤英山	生物資源学部
	星野真由	生物資源学部
	藤原真由	生物資源学部
3年	伊藤英山	生物資源学部
	藤原真由	生物資源学部
	藤原真由	生物資源学部
2年	石川大樹	生物資源学部
	石川大樹	生物資源学部
	石川大樹	生物資源学部
1年	石川大樹	生物資源学部
	石川大樹	生物資源学部
	石川大樹	生物資源学部



◆充実の環境・設備 学生たちが活動する神奈川県藤沢市亀井野の合宿所・馬場には、学生寮に隣接する本厩舎と新厩舎があり、本厩舎は昨年リニューアルしたばかり。新厩舎もエアコン完備で学生たちと同様、快適な生活を送っている。運動をするための本馬場は、馬の安全性と環境への配慮を両方兼ね備えた最高のコンディションを有している。ほかにも自然の地形を利用してトレーニングが行える山坂や、よりよい馬の調教を行うことができる丸馬場なども備えている。